



11月22日(日)、新型コロナウイルス感染拡大の影響で支援活動も制限される中、半年遅れの令和2年度柿農家支援プロジェクトが始まり、早朝から志波富有柿収穫作業が行われた。

九州北部豪雨で亡くなられた方々へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。ともに早期の復旧・復興を祈念します。



## コロナ禍の中で志波富有柿収穫作業

薄曇りの中での収穫作業であったが、午前中は雨が降るとは思えない爽やかな気候で一つひとつ柿を摘んでいった。しかし、11時を過ぎると雲が始め正午過ぎに雨が降る前に作業を終えた。短い時間だったが、12ケース約1000個の柿を収穫できた。昨年は豊作で今年は裏年にあたり、数は少なく、また、天候の影響で全体的に小振りの生育状況であったが、品質は良好である。



## 風雨にも負けず

収穫は常時マスクを装着し感染防止対策を行いながらの作業となった。九州地方は7月の豪雨、9月の台風9号、10号と立て続けに災害をもたらしたが、志波富有柿は激しい風雨にも負けずに紅い実をたわわに実らせていた。コロナの影響で沈みがちな心も勇気と力を与えてくれる収穫作業となった。



## 朝倉志波柿農家支援プロジェクト

九州北部豪雨の発生から3年が過ぎ、朝倉の町並みは落ち着いてきているが、土砂崩れ等で崩壊した山肌や河川沿いの傷跡は今も残り、心の中にも強く残っている。

柿農園に向かう道路は工事中の看板が並び、重機がせわしなく動いている。また、大きなトラックが土砂を積んでひっきりなしに走っている。復興はまだまだ長い道のりである。

